ファイル間での設定の更新

Cisco Crosswork Planning では、現在動作中のネットワークのトポロジ、ルーティング、および使用率をモデル化できます。また、そのネットワークに対する変更を調査することもできます。たとえば、インターフェイスメトリックが変更されたり、新しいルーティング設定を取得するために明示的な LSP ルーティングが変更されたりする場合ができます。

切り替えツールを使用すると、ネットワークを初期設定から事前に指定された最終設定に安全に移行させるために、ルーティング設定の変更を段階的に実行できます。Cisco Crosswork Planning は、これらの変更の順序を選択して、中間設定中にネットワーク内の輻輳ができるだけ少なくなるようにします。これにより、この輻輳が続く中間手順が可能な限り削減されます。

初期プランと最終プランの間では、次の特定の設定変更のみが許可されます。

- インターフェイスメトリックの変更
- LSP 設定の変更
- アクティブ状態から非アクティブ状態へ（およびその逆）の回線とノードの変更

切り替えシーケンスの個々の手順は、次のいずれかで構成されます。

- 特定のインターフェイスでの単一のメトリック変更
- 特定のノードを送信元とするすべての LSP での LSP 設定の変更
- 特定の回線またはノードのアクティブ化または非アクティブ化

ここでは、次の内容について説明します。

- 切り替えツールの実行 （1 ページ）
- レポートの分析 （4 ページ）

切り替えツールの実行

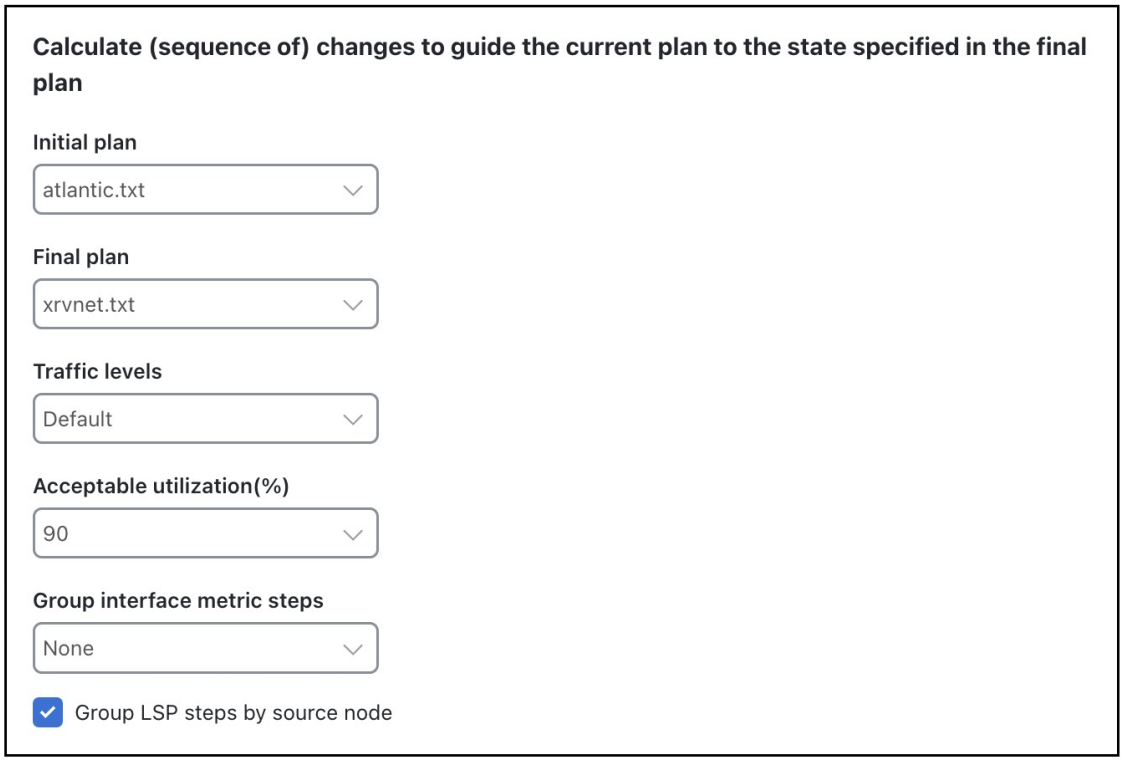
切り替えツールを実行するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 初期プランファイルと最終プランファイルの両方を開き（プランファイルを開くを参照）、表示する目的のプランを選択します。

ステップ 2 ツールバーから、[アクション（Actions）]>[ツール（Tools）]>[切り替え（Changeover）] の順に選択します。

図 *1*:切り替えオプション



ステップ 3 使用する切り替えオプションを決定します。フィールドの説明については、表 1 : 切り替えオプション （3 ページ）を参照してください。

ステップ 4 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 5 [実行設定（Run Settings）] ページの [実行（Execute）] で、次のいずれかのオプションを選択します。

- [今すぐ（Now）] : ツールをすぐに実行するには、このオプションを選択します。完了すると、結果のレポートが自動的に開きます。
- [スケジュールされたジョブとして（As a scheduled job）] : スケジュールされた時刻にツールを実行するには、このオプションを選択します。ジョブの優先順位と、ジョブをスケジュールする日時を設定します。詳細を指定したら、[送信（Submit）] をクリックします。この場合、ジョブは非同期ジョブとして実行され、[Job Manager] ページ（メインメニューから [Job Manager] を選択）からジョブのステータスを追跡できます。

（注）
ジョブをスケジュールする前に、必ず、プランファイルを保存してください。ツールをスケジュールされたジョブとして実行する場合、プランファイルの保存されていない変更は考慮されません。

表 *1:* 切り替えオプション

フィールド	説明
[初期プラン（Initial plan）]	開いているプランファイルから選択された初期プランの名前。
[最終プラン（Final plan）]	開いているプランファイルから選択された最終プランの名前。
[トラフィックレベル（Traffic levels）]	切り替えツールは、シーケンス内のすべてのステップについて、最大インターフェイス使用率レベルをモニターします。使用率は、このトラフィックレベルを使用して計算されます。
[許容使用率（%）（Acceptable utilization (%)）]	切り替えシーケンス中の任意のステップにおける任意のインターフェイスでの最大許容使用率のパーセンテージ。切り替えツールは、使用率をこのレベル未満に維持しようとしますが、常に可能であるとは限りません。たとえば、新しい ECMP パスを配置する必要がある場合、シーケンスの最後の数ステップで使用率が急増することがよくあります。Cisco Crosswork Planning は、使用率の高いステップの数を最小化しようとします。
[インターフェイスメトリックステップのグループ化（Group interface metric steps）]	切り替えツールを使用すると、インターフェイスメトリックの変更をステップにグループ化できます。次のオプションの中から選択できます。 • [なし（None）]：各インターフェイスメトリックの変更が 1 つのステップとして扱われます。 • [並列（Parallel）]：並列インターフェイスが 1 つのステップにグループ化されます。 • [送信元ノード（Source Node）]：最大使用率に影響がない場合、同じノードから送信されるインターフェイスが 1 つのステップにグループ化されます。
[送信元ノード別の LSP ステップのグループ化（Group LSP steps by source node）]	LSP ステップを送信元ノード別にグループ化するかどうかを指定します。

レポートの分析

切り替えによって作成されたレポートにアクセスするには、[アクション（Actions）]>[レポート（Reports）] > [生成されたレポート（Generated reports）] の順に選択し、右側のパネルから [切り替え（Changeover）] リンクをクリックします。

切り替えにより、次のセクションを含むレポートが作成されます。

- [サマリー（Summary）] : このタブには、切り替えの実行に使用されるオプションのリストが含まれています。また、初期プランと最終プランの違い、実行された手順の数、および使用率が許容可能な使用率を超える中間設定になった手順の数のサマリーも含まれます。
- [手順（Steps）] : このタブには、切り替えツールの実行中に各手順で実行されるアクションの詳細情報が含まれます。
- [使用率（Utilizations）] : このタブには、切り替えシーケンスの各手順について、ネットワークに含まれるすべてのインターフェイスに関するすべての使用率が含まれます。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。